

民児連広報

発行 令和7年10月31日

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

旭川市5条通4丁目

旭川市ときわ市民ホール1階

旭川市社会福祉協議会内

電話0166-56-0150

発行人 佐川 徹

種は時かなければ 花も咲かないし 実もならない

旭川市民生委員児童委員連絡協議会 会長 佐川 徹

日毎に木々の葉も色付き始め、初冬へと季節は進んでいます。自然災害多発の年でありましたが、幸いに私達の住む旭川は、大きな災害に見舞われることはありませんでした。しかし、昔から「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていました。今は「忘れる前にやってくる」とそんな常態です。常に備えは必要です。

今年は、全国一斉の改選年です。多くの委員さんが退任される予定ですが、それ以上に新任委員さんの選任でも各地共に大変な作業をされているものと思います。長期に渡り活動をしていける委員さんを確保していただければ、現職の委員さんと共に確保に努力してください。頭数をそろえるだけの確保は極力避けたほうが宜しいかと思っています。

さて、本年九月には、四十三年ぶりの全国大会が札幌市で開催されました。旭川市からは九十三名の委員さんが出席されました。十周年ごとに実施されています全国大会（五千名）に匹敵する四千二百名の参加者で盛大に行われ、無事二日間の日程を終えることが出来ました。

旭川市民児連から猫山会長の作文コンテストについて、さらに早川会長からは、災害についての事例発表がございました。大変好評で、とくに作文コンテストに関しては他府県からの問い合わせが来ています。ひとえに皆様のご協力があったの賜物です。有り難うございました。

二年後には天皇后陛下御臨席のもとに民生委員制度創設百十周年記念大会が東京にて開催されます。皆さんにお願いがあります。現在、旭川市民児連では物価高騰の影響が諸活動にかなりの影響を与えております。この対策のために、行政にもお願いはしておりますが、我々も汗を

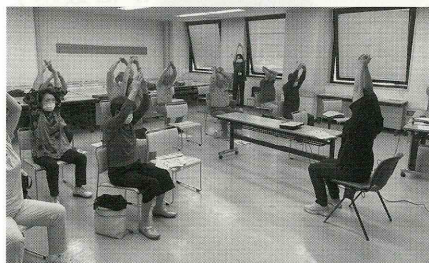
写真で見る民児連の動き



第103回民児連大会(5/10)※作文コンテスト表彰式の様子



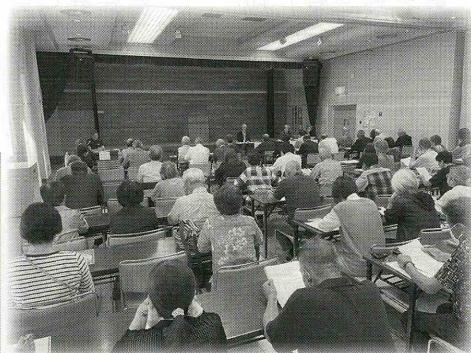
須崎市民児協視察受入(5/19)



高齢者・障がい者福祉部会「部会員研修」(9/29)



函館市民児連視察受入(7/24～25)



住民福祉部会「事例検討会」(9/24)

全国民生委員児童委員大会

東鷹栖地区民生委員児童委員協議会

会長 西 塚 博 行

イラムクラブで、昨年九州宮崎に於いて開催された全国大会で、次期開催地となる北海道から北海道民生委員児童委員連盟佐川会長より冒頭にアイヌ語で「こんにちは」と挨拶され、本大会に於いては司会者よりこの挨拶をもって日程の開始となり、短いスケジュールではありましたが盛りだくさんの企画が催されました。

オープニングでは、千歳アイヌ文化伝承保存会の踊り、そして多くの大会に於いて数々の大賞を受賞している平岸天神ソーラン踊り保存会の力強い演舞を、広いステージを所せましと表現され、大会の成功を祈るかのようなスタートとなりました。

全国民生委員児童委員連合会会長をはじめ、厚生労働大臣(代理)ほか主たる国の機関関係者、そして開催地でもある鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長の挨拶をもって大会の大きさがあらわされた会の開始となりました。

全国民生委員児童委員連合会会長表彰を多くの方が受賞ののち特別講義に移り、講師の渡辺一史氏による「なぜ人と人は支え合のか」のテーマで進められ、その中で要介助者と介助者の立場について話され、通常は強い立場の人が弱い人に代わって決定を行うとなつていますが、そうではなく相手とのズレは何かを突き詰めて話し合うことの大切さを

知る。そこで私が思うのは、自分の考えを押し付けようとする強い気持ちが多く、ズレを生じさせているのではないかと、相手の話をよく聞く、そこに奉仕の心を少し持ち出すせば解決の糸口が見つかるとは思いますが感じます。

の役に立っている、支えられる人がいてそこに生き甲斐をもらえていることに気付く。そして人に頼るのはダメではなく他人や社会に上手に頼ることの大切さにも触れておられました。

翌日は五つの活動交流会があり、旭川市民生委員児童委員連合協議会猫山副会長と末広東地区民生委員児童委員協議会早川会長がそれぞれの会場で発表者として参加され大変盛り上がったことでした。

私は別会場のシンポジウムを聴講し、四名の発表者が登壇され、中でも札幌市厚別区もみじ台地区民生委員児童委員協議会石山会長の

西第一地区民生委員児童委員協議会

副会長 谷 島 泰 三

戸 惑 い

いつの例会であつただろうかと、西第一地区から三人の参加を小林会長から提示されました。私は即参加を申し込みました。その時は乗りで参加としましたが、よく考えると私の体調、家内の事など三泊四日の全国大会は参加できないと断りました。すると菅原副会長が一泊二日と訂正し、私はやむなく全国大会に参加を了承しました。

残念

朝五時に起床し、八時半大雪アリーナ駐車場を出発しました。十時に稲荷寿司と太巻きの昼食弁当を食べ、十一時に「きたえる」に到着。会場は大きく、旭川の文化会館では全国大会は開催できないと残念に思いました。開会式は北海道民生委員児童委員連盟佐川会長

の開催挨拶で始まり、札幌市民児協紙谷会長、全国児連得能会長と続き、厚生労働大臣、内閣府特命大臣(こども政策)少子化対策三原じゅん子氏の挨拶が予定されていましたが、官僚の代理挨拶で、とても残念でした。鈴木北海道知事、秋元札幌市長が登壇しました。両氏と同一空間に居合わせることで、きたのは初めての経験でした。

特別講義

「なぜ人と人は支え合のか」の演題で、ノンフィクション作家渡辺一史さんの講演を拝聴しました。正直言いまして眠気が襲い夢うつつで拝聴しました。今思い出してみますと重度障がい者のボランティアの話でした。障がい者本人は介助されているのではなく、介助の方法・留意点を指導していることの認識で介助を受けていま

「孤独・孤立に寄り添うために」の講題で他の機関や地域住民と連携した見守り、繋がりづくりの実践に力強く取り組んでいる内容でした。

特に委員の中で今皆さんが持っている「もやもや」をそれぞれから出してもらい整理し、優先順位を付け実践する取組が参考になりました。当地区に於いても「もやも



や」を取り入れ問題の解決に活用出来ればと考えております。最後に、この様な大会を催してくださった関係者に深く感謝申し上げます。

シンポジウム

地域における孤独・孤立に寄り添うセーフティネットと民生委員・児童委員との題で、シンポジスト、コーディネーター、運営者で進められましたが、内容は重く、心詰まる課題であり、民生委員児童委員が主に関われない課題です。私達が関われる部分は孤立・孤独者の把握であり、認定NPO法人、元保障サービス、自治体へとつなぐ役割に徹することと考えます。

第八十三回和歌山大会

会長になって二年目、平成二十六年全国大会に参加しました。西第一地区民児協の運営や二十名の委員との関わり方など、他地区の会長との意見・交流が大変記憶に残っています。加えて頻りにメールを送った記憶が蘇ってきました。

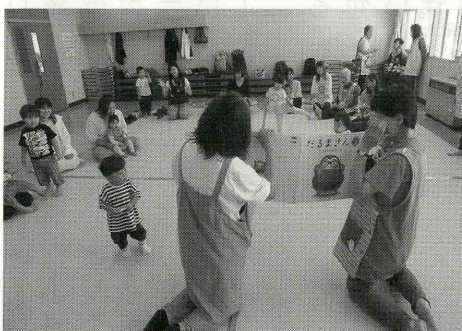
地区だより

愛宕地区

民生委員児童委員協議会
副会長 河 治 美智子

私たちの地区で特に力を入れて取り組んでいる活動は、子育てサロンです。就学前の乳幼児親子の交流の場として、毎月1回、最終火曜日に開催しています。子育てで中々外に出てお友達を作ることができないお母さんやお子さんの手助けになればと設立しました。今年で約20年になります。

活動内容は、前半に車やボールプール、ブロック等のおもちゃで自由遊びをしています。



この時間には、親同士のネットワークも広がり、新規の参加者も増え、私たちの本来の目的の一助となっています。後半は支援センターの先生による手遊び、絵本の読み聞かせ、季節の行事に合わせたミニ工作等を行っています。クリスマスにはサンタクロースに扮した委員がおよつを配り、節分には鬼に扮し豆まきをします。きょうだいで参加の場合、普段の生活では下の子に手がかかって上の子との時間がないと思うので、子育てサロンに来ての間は、委員が下の子を見守り、上の子と親御さんとの時間を過ごしてもらふようにサポートしています。

私たち民生委員は、子育てサロンの裏方として毎回15、16人が携わっています。開催会場の愛宕公民館1階には、長机と椅子が設置されているため、子育てサロンの開始前に、委員が力を合わせてすべてを片付け、カーペットを敷き親子が座って集まれる場所を用意します。用意するおもちゃ

をひとつずつ丁寧に消毒して、参加者を待ちます。消毒しながら、委員同士の交流もできています。参加予約は不要のため、毎回何組来てくれるかドキドキしています。一生懸命準備をしても参加者がいなくてがっかりしたこともありましたが、考え方を变えて委員同士の茶話会の時間となりました。

最近はおコミ等で10組以上の親子が来てくれます。発足当初は、2・3歳のお子さんの参加が多くありましたが、現在は0歳児が多く、時々父親の参加もあり、時代の変化を感じています。

昨年度から一眼レフカメラで親子写真を撮影して、画像データを送っているのですが、とても喜ばれています。「自分と子どもの写真が少ないので撮って頂いてうれしい」という感想を頂いています。

子育てサロンの最後にはお茶を提供し、ちよつとしたお菓子プレゼントしています。持ち帰る親子もいますが、その場で食べながらおしゃべりする親子が多く、交流の場になっています。

時代の流れとともに子育ての考え方が違ってきているので、どのように参加者親子と関わって良いのか悩ましいところでもあります。しかしながら、親同士が顔見知りになって、再会の場

としても子育てサロンを利用してくださっている様子がうれしく、会場の準備や原状復帰

永山東地区

民生委員児童委員協議会
副会長 松 本 明 美

永山東地区は、37名の大部分で、活動範囲も農村から新興住宅地と幅広い地域です。

昨年から、タブレット入力が始まり、37名全員にタブレットが与えられ、何度も講習会を受け、四苦八苦しながらも、ようやく軌道にのったところです。

当地区は、第二地区と第三地区の範囲にあり、共通して活動していることは「子育てサロン」です。

第二地区では乳幼児から未就園児を対象に、民生委員児童委員と公民館を中心に関係団体の協力を得て、毎月第3木曜日に開催しています。令和4年度から旭川市立短期大学幼児教育学科の佐々木ゼミの協力を得て、学生さんも参加し、絵本の読み聞かせやリズム遊びなど、学生たちのアイデアと工夫を凝らして子どもたちと楽しく過ごしています。また、お父さんの参加できる土曜日開催の月も設けています。

第三地区では、毎月18日に開催しています。永山地区以外か

作業は大変ですが、これからも活動を継続していきたいと思っています。



らも4、5組の親子の参加があり、自由遊びと工作で、子どもが喜んでくれるものを手作りにしています。また、子育て支援センターの協力を得て、サロンではできない活動も年数回行い、いい刺激になっています。私たち子どもたちの成長を傍で見られることは大きな喜びでもあります。

高齢者に対しても、年に一度、2地区で「手作りランチ懇話会」を開催し、65歳以上の一人暮らしの方を対象に交流を深めています。昨年度は、90名の参加があり、ボランティア7名でした。ボランティアは、前日から手作りのお弁当を準備します。当日は、余興やビンゴゲームなど、楽しいひと時を過ごされています。

近年、お弁当はお持ち帰りですが、「美味しかったよ」と後日聞きますと、私たちも心がほっとりと幸せな気分になります。

もうひとつ、第三地区では、60歳以上を対象に「三区いきいき脳力クラブ」のサポートを行っています。

非日常的な体験をすることで、脳に刺激を与えて認知症の予防をするという新しい試みです。お茶の先生からお抹茶のお手前や飲み方などの作法であつたり、お花の先生からはアレンジメントのお花を生けたり、大学教授を招いて火を使わず夏バテ防止の簡単料理、理学療法士からの「歩き方、姿勢のチェック」、自分好みの香りで作るハンドクリームなどを行っています。また、笑いヨガやオペラ発声入門まで、多種多様です。毎回サポートしながら緊張感と刺激を受けています。永山東地区の民生委員児童

神楽地区

民生委員児童委員協議会
広報部長 大村 慈 子

みなさまこんにちは。神楽地区民生委員児童委員協議会です。20名の委員で、地区に暮らす皆さんが『安心して楽しく生活するように』と願いながら、以下のような活動を

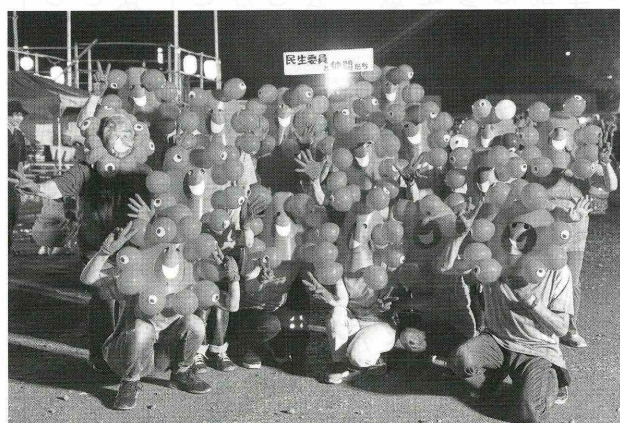
委員の活動を大まかに紹介しましたが、高齢者の見守りは勿論、認知症高齢者等のひとり歩きによる行方不明を探索するSOSネットワークへの協力や参加など、ますます私たちに課せられる問題は山積みですが、「ありがたい」の笑顔とボランティア精神を忘れずに、自分に今できることを頑張っていこうと思っています。



しています。屋根の雪下ろし・ホットラインの申請手続きはもちろん、市から依頼された『喜寿お祝い金』や『出産お祝いの絵本』のお届けの代行。ピンク色のジャンパーに身を包み小学新1年生の登校見守り。『子育てサロン』『子ども食堂』『高齢者歌サロンの』『自主学習室』市社協

や神楽まちづくり協議会事業へ協力。また、交通安全運動・夏休みの見回り・オレンジリボン運動・赤い羽根街頭募金・施設などの見学・研修会……そして地域の『お神楽祭り』では、子ども盆踊りが終わった後に、神楽まちづくり協議会の委員・市職員さん含むみんなで『民生委員と仲間たち』と、プラカードを掲げて毎年委員手作りの衣装を纏い仮装をして大人盆踊りに参加し、会場を盛り上げる活動もしております。

さて、全国的に委員の担い手の不足。またPTA役員・町内会役員等々……深刻な状況。コロナ禍が足を引っ張った形で、行事が中止になったりしましたが、挫けずに活動を続けています。しかし、コロナウイルスが蔓延し、老若男女問わず物理的・精神的に疲弊した方も少なからずいらっしゃいます。自ら民生委員や行政に足を運ぶ方もいますが、悩みを抱えたままの方も多いと思います。こういった方々が、気軽に私どもに関わりが持てるように、まずは『笑顔であいさつ』の輪を広げ、訪ねやすい、話



お神楽祭りで「みゃくみゃく」の仮装



小学1年生の登校見守り

しやすい、環境づくりを根ざしましょう！
一年草ではなく宿根草のように、芽が出て、蕾に花が咲き、次の年からは、更に根を張り花の数も増えていきます。「たすけあい」という思いやりの水を笑顔で撒きましよう。

謹んでご冥福を
お祈りいたします

愛宕地区

天坂 公信 委員

(令和7年5月6日逝去)

永山西地区

金森 美恵子 委員

(令和7年7月2日逝去)

空き缶回収にご協力ください！

編集後記

今年は一斉改選の年です。「次の人がなかなか見つからない」「欠員が増えそうだ」など、悲鳴ともいえるような声も聞こえてきました。そのような中で、こんな声をいただきました。

「作文コンクールの作品をすべて拝読させていただきました。子ども達の方が私たちよりも、地域で暮らすということに対して自分なりの考えを持っているのではないかと大変驚きました。コンクールの趣旨に大変共感いたしました。私にお手伝いできることがありましたら携わっていきたい。」

私たち民生委員・児童委員に、元気をわかせてくれる嬉しい言葉でした。(三)